



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(222) 7207 番

96.8.19 No. 4450

## 戦後51年を問う8・15集会開催

# 改憲阻止・戦争反対を誓う!

### 二度と侵略戦争を許さない闘いと行動を!

戦争責任を追究し、憲法改悪に反対する八・一五集会(主催戦後五〇年を問う八・一五労働者市民の集い全国統一実行委員会)が、東京・西荻勤労福祉会館において開催されました。

集会は二部で構成され、会場入口では、バザーや関係書籍の販売が行われました。はじめの第一部では、「叫ぶ詩人の会」による演奏。第二部では、九・一破防法反対集会への結集のアップール、集会実行委員会から闘いの報告がありました。

つづいて、前長崎市長である本島等さんを講師に、「戦後五年と戦争責任」と題する講演を聞き(要旨別掲、本島さんは天皇代替りの過程で「天皇に戦争責任はある」と発言し、右翼による襲撃をうけた人です。被災地、長崎から戦争責任を問いつづけています)、休憩をはさんで、佐藤優美子さんによる歌、「改憲前夜―日本国家の戦争責任を問う」として、パネルディスカッションが行われました。

パネルは、先ほどの本島等さん、映画「侵略」の制作者である高校教師の森正孝さん、わが勤労千葉の水野正美さん、弁護士の鈴木達夫さん、コーディネーターは、同じく弁護士の高田典子さんです。

お話では、「憲法はたしかに問題点はあるけども、キチンと理解し闘いの武器とすること」「改憲と言うとき、誰が、何のためにやろうとしているのか。アジアに対する再侵略のためではないのか。このことが、総選挙後の第一級の政治課題になる」「軍隊慰安婦の人々をはじめアジアの民衆の間人々としての叫びに答える責任があること」「労働者の歴史的役割、闘う新たな潮流、階級的労働運動の重要性」など、がありました。

決戦の沖繩から、八・二八最高裁闘争、九・八県民投票に向けた闘いなどの発言をうけ、集会参加者一同、戦後五一年、今再び、「日米安保共同宣言」、有事立法、憲法改悪と戦争の足音が高まっているなかで、この八月一五日という日に「日本国家天皇の戦争責任」を問う直し、「二度と侵略戦争を許さない」闘い、行動することを誓いました。

**元慰安婦への償い事業**

**8・15直前 見切り発車**

**「満足だ」「分断策だ」**

被害者ら複雑

道義的責任を痛感

韓国

「反対の声」を謝罪文の中には、日本の戦争責任、天皇の戦争責任については一言も触れられていない。(8月15日付、朝日)

### 本島等氏講演発言要旨

われわれの義務と責任

私は、熊本の教育隊の砲兵員の教官として終戦を迎えました。その頃は日本が負けたことも、原爆がすぐその長崎にあったことも知りませんでした。帰ってからすべてわかりました。この核兵器の恐ろしさ、いかに大きいかということを考えなければなりません。

被爆者援護法と言うときに、原爆は誤った戦争の結果だから落された、だから誤った結果による被害は国が救わなければならぬ。そして誤った戦争であるならば、もう二度と戦争はしないという誓いも国がしなければならぬ。これが、本当の主旨です。

今まさに憲法が改正され、戦争が近づく印象をうけますが、

私の中で我々は、どうしなければならぬのか。ある人が言います。国がダメになる時は、政治がダメになる、野党がダメになる、次に労働組合の大きな流れがダメになる。次にマスメディアがダメになる、次に草の根運動がダメになる、どうか皆さんこのことだけは、頑張ってください。

我々は、子や孫、ずーとその子孫にすばらしい世界、人類、地球を残さなければならぬ義務と責任があります。そのため皆さんが一生懸命、努力をして毎日の中に平和を考え、人類の愛を考え、我々がどうあるべきか考え、我々の隣人にどう伝えるべきか考えていただきたい。と思います。